Bibliophiles

ビブリオファイルズ　No.15(2018 年度)

新着図書案内・お知らせ　西宮東高校図書館

『三島由紀夫 ふたつの謎』

大澤真幸

ノーベル賞の最終候補にも残ったことがある(1963 年)ほどの文豪であった三島由紀夫は、同時に「切腹」という時代錯誤的な最期を遂げたことでも有名で、多くの人は「あの作家は気がおかしくなった」と捉え、大きなニュースになりました。また彼の自決の日に完成したとされる『豊饒の海』のラストシーンは、ある意味で支離滅裂な結末でした。気鋭の社会学者・大澤真幸がこのふたつの謎に迫ります。

『天皇　「生前退位」の真実』

高森明勅

この４月で平成という時代が終わりますが、それは言うまでもなく今上天皇ご自身が生前退位（譲位）を望まれたからです。このことがなぜニュースになったのかと言えば、明治以前は譲位は「普通のこと」で 58 代の皇位継承が譲位によって行われていますが、現在の皇室典範には譲位の規定がないからなのです。今上天皇は国民と皇室の将来のために皇室典範の改正を望まれましたが、安倍政権はこれを認めず、譲位を一代限りの特例法で対処しました。その理由とは？ぜひご一読を。

『自衛隊防災 BOOK』

「世界一受けたい授業」など、テレビでも何回か取り上げられ、すでに 20 万部以上を売ったベストセラーです。

「ズボンを浮輪がわりにする方法」や「ビニールカッパを下着の上に着て寒さから守る方法」などなど、自衛隊員や防衛省の協力を得て作られた、本物の「サバイバル技術」がてんこ盛りの本です。

『Little Wings 2019　次世代スケーター８人の「今」と「未来」』

西宮市出身のフィギュアスケーター・紀平梨花が昨年金メダリストのザギトワを破って世界王者となったのは、記憶に新しいところですね。この本は、彼女を含む８人の若手スケーターのインタビュー集です。もちろん、写真も多いですよ。

『ブラタモリ 16　富士山・三保松原・高野山・宝塚・有馬温泉』

この本の後半は、宝塚や有馬温泉といった、西宮の近場を紹介しています。

あの宝塚歌劇は、ある大きな「失敗」からたまたま誕生したのですが、その失敗とは？また有馬温泉の水質を特徴づけるのは「炭酸」「鉄分」とあと一つは？

☆選定委員（生徒）による選んだ本の紹介です！ ☆

まず**筒井康孝の『パプリカ』**。アニメにもなった SF の名作で、精神療法の目的で患者の夢の中に潜入する「夢探偵」パプリカの活躍を描きます。選んだ選定委員の推薦コメントです。「この小説は、現実と相反する夢の世界の物語です。作者を語る上で外せない１冊です。」（1 年男子）

『六百六十円の事情』『僕の小規模な奇跡』『もう一人の魔女』など、**入間人間（いるまひとま）**の小説も多数入りました。その中から**『ぼっちーズ』**について、選定した委員のコメントです。「さまざまな理由で友達ができない大学生たちが、１人１人短編の主人公となり、友達を作ろうと奮闘する物語です。作品全体の大きな仕かけに気づけば、きっと読み返したくなるはず。」（1 年女子）

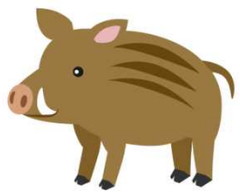
最後に人気作家の**辻村深月**の新作**『噛みあわない会話と、ある過去について』**は、４編からなる短編集です。「辻村さんの本屋大賞後の第１作になる本で、予想通りにはいかない数々の結末が心に刺さる１冊です。」（２年女子）

ルイス・キャロルの関連本、沢山入りました！

まずは**『「不思議の国のアリス」を英語で読む』**。筆者で翻訳家の別宮貞徳は、『アリス』を英語で読むことこそが「ほんとうの英語上達法」だと述べています。日本語で読んだことのある人は、ぜひチャレンジを。次に**『スナーク狩り』**。謎めいたナンセンス詩の名作（迷作？）に、あの「ムーミン」のトーベ・ヤンソンが絵を付けました。翻訳は歌人の穂村弘です。本職は数学者であったキャロルの数学パズルやパラドックスを紹介した**『数の国のルイス・キャロル』**も必読です。

『ファンタスティック・ビーストと黒い魔法使いの誕生 映画オリジナル脚本版』　J.K.ローリング　ほか

「ハリー・ポッター」関連映画の最新作の脚本（セリフやト書きなど）です。英語の原語版と日本語訳の２冊を購入しましたので、映画を見てから英語版に挑戦したりなどすると、英語力アップにつながると思います。



『一切なりゆき』　　樹木希林

さまざまな映画で独特の存在感を示していた女優・樹木希林。昨年９月に 75 歳の生涯を閉じましたが、本書は雑誌等に掲載された彼女の言葉を集めたものです。家族や自分のこと、演技のことなど色々なことを語っていますが、「家でセリフは覚えてこない。現場で覚える。」などユニークな発言が目白押しです。

今号のひとこと

門松は 冥土の旅の一里塚
めでたくもあり めでたくもなし

一休宗純（1394-1481）

「とんち」で有名な一休の歌です。絵本やアニメに見られる「一休のとんち話」はほとんどが作り話ですが、一休宗純は実在の人物で、ある天皇の私生児として生まれ、民衆に親しまれた僧侶ですね。

ご存知のように、「古典」の時代の年齢は「数え年」でした。今のような誕生日ではなくて、正月に日本人が一斉に年をとったわけです。世間ではその正月を「めでたい」とお祭り騒ぎで迎えるのですが、果たして正月は本当に縁起がいいのか。それは同時に死へと近づく道標なのでは・・という内容ですね。